



1枚のはがきに想いを込めて

# 町を繋ぐ新たな連携



昨年12月、上峰小学校で初めて「手紙の書き方体験授業」を開催し、児童たちは手紙を書く楽しさに触れ、心を込めて年賀状を書き上げました。

この体験授業は、町と日本郵便株式会社とが締結した包括的連携協定の一つとして行われたものです。さらなる町民サービスの充実が期待される連携と、体験授業の様子をご紹介します。

## 地域を繋ぐ新たな力

昨年9月30日、上峰町は地域の一層の活性化と町民サービスの向上を目指し、日本郵便株式会社と包括的連携協定を締結しました。

細やかな地域ネットワークを持つ郵便局と相互に緊密な連携をとることとで、皆さんの暮らしに役立てていきます。

締結の内容には次の5つの項目があります。



1

安心・安全な暮らしの実現に関する事

すでに①の「安心・安全な暮らしの実現に関する事」は、地域の見守り活動への協力として一人暮らしの高齢者のみまもりサービスが始まっています。

3

未来を担う子どもの育成に関する事

### 包括連携協定締結内容

2

地域経済活性化に関する事

4

女性活躍推進に関する事

5

その他、地方創生、地域社会の活性化及び町民サービスの向上に関する事





▲真剣に年賀状を書く児童たち



明治5年頃の郵便配達する人の制服姿で登場!



はら しんすけ  
上峰郵便局長 原 晋介さん

## 「手紙の書き方体験授業」を開催

「③未来を担う子どもへの育成に関すること」の一環として、12月9日、11日、12日に上峰小学校の4、5、6年生を対象に「手紙の書き方体験授業」を開催しました。

近年、インターネットやスマートフォンなどによるコミュニケーションが増え、手紙を書く機会が減少しています。

平成30年に全国を対象に行われた「手紙の書き方体験授業」アンケート調査では、家の郵便番号(7桁)を正確に言えない児童が5年生以下では6割を超え、1年生では9割以上という結果でした。さらに年賀状を出した数も10通未満が5割を超えている現状です。

手紙を書く楽しみ、手紙を受け取った時の喜びをしっかりと経験する機会を設けるために書写の授業の中で開催されました。

日本郵便株式会社の社員が指導にあたり、送り先の住所と名前を書く場所、手紙の内容などを説明すると、児童たちは興味深く話を聞いていました。

さらに、ふるさと納税寄附者に感謝の気持ちを込めた年賀状の作成にも挑戦。

児童たちは「オンライン英会話の勉強ができるようになりました」と授業を受ける様子のイラストを描いたり、「通学バスのらんかいがきれいになりました」とお正月らしい絵と共にカラフルに彩ったり、丁寧に書きあげました。

寄附者の真心で学校生活や暮らしが支えられていることを実感し、ふるさと納税を身近に感じる良い機会となりました。

感謝の気持ちがこもったぬくもりのある年賀状は全国の寄附者に発送し、喜びの声が届いています。

全国にネットワークを持つ日本郵便株式会社とさらに連携を深めながら、これからも暮らしやすい地域づくりに取り組んでいきます。

【参照】平成30(2018)年「手紙の書き方体験授業」アンケート調査結果報告  
「問い合わせ」 まち・ひと・しごと創生  
室 52-2182

### 子どもたちの感想

自分の気持ちが素直に伝えられることがよく分かったので楽しかった。

友達や感謝を伝えたい人に教わったことを書いて毎年出したい!



初めて年賀状を書いた!  
ちゃんと届くと嬉しいです。

